

お詫びと訂正のお願い

本誌Vol.46, No.4 (186号) に一部誤りがありましたので、訂正の上お詫び申し上げます。
 なお、訂正版につきましては、当法人ホームページよりダウンロードできますのでご参照ください。

Vol.46, No.4 (186号) [難所に浮かぶ「ブラックボックス」大阪中之島美術館の構造デザイン]
 (https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/gbrc/GBRC186_898.pdf)

p.16、3.3節	
【訂正前】	【訂正後】
3.3 液状化 中之島は、さらに「液状化」にも注意が必要となる。 杭頭部から深さ5mまでの砂質土層で、地震加速度350galに対するFL値の最小が0.518と算出され液状化の可能性が高いと見られるため、水平地盤反力係数を低減して設計した。 杭は深さ35m付近の中間層を貫通させ、深さ50m付近の礫混り砂層を支持層とした太径の場所打ち鋼管コンクリート拡底杭（軸径1400mm+拡底径1700～2500mmおよび軸径1700mm+拡底径3100～3400mm）とした（図-13）。 杭の到達する層は層厚6m、N値57～60、せん断波速度430cm/secでありこれを工学的地盤面と見なしている。	3.3 液状化 中之島は、さらに「液状化」にも注意が必要となる。 杭頭部から深さ5mまでの砂質土層で、地震加速度350galに対するFL値の最小が0.518と算出され液状化の可能性が高いと見られるため、水平地盤反力係数を低減して設計した。 杭は深さ35m付近の中間層を貫通させ、深さ50m付近の礫混り砂層を支持層とした太径の場所打ち鋼管コンクリート拡底杭（軸径1400mm+拡底径1700～2500mmおよび軸径1700mm+拡底径3100～3400mm）とした（図-13）。 杭の到達する層は層厚6m、N値57～60、せん断波速度430m/secでありこれを工学的地盤面と見なしている。